

1 周布政之助の自害 原因 について 1864 年 9 月 26 日 05 時ごろ吉富家の畑 吉富 簡一が俗論派に襲われた井上馨の手術の 手伝いに行っている間に起こしている。遺書は、3 通 毛利敬親宛 簡一宛 杉孫七郎（甥にあたる）宛

倒幕、開国を訴えての諫死（かんし）と推定、身を隠している晋作へ決起して倒幕しろとの激と、孫七郎が政之助の意思を継いでいる。

・公家 7 人の意見等によって兵を京都に進発させたことについて（禁門の変）自分が政庁にいれば行かせなかった。三田尻まで進発を止めに使いを出したが 1 日違いでできなかった。それでも、敗北後の事後処理を岩国と相談しながら、遺書を抱えて京都まで行って周旋を行っている。——なんて人の良いことでしょう。

8 月 7 日朝 藩政府員と聞多ら会議。激論となり、聞多が諫死 藩政府員と聞多ら会議。激論となり、聞多が諫死（ハラキリ）しようとする のを晋作が止める。⇒ 談判会議を前日にして聞多は、世界列強国を相手に交渉すること をわかってもらうため をわかってもらうための行為。

8 日 談判会議 で英国と談判会議成功 ⇒ 三条等公家 4 人いてもたってもおられず小郡まで出かけて敗北を知る（攘夷戦争とらえている）。この夜、のちに益次郎をも暗殺 この夜、のちに益次郎をも暗殺 した狂信的な尊王攘夷思想の神代直人を筆頭に、三条、品川弥次郎等までが政治堂に押し かけ英国と和平を結ぼうとするとは何事かと詰め寄る。毛利登人はとっさに身の危険を感じ晋作、聞多、伊藤等が勝手にやったとその場しのぎのうそを言ってしまった。では遠慮はいらん、3 人を斬れとなったわけです。

久保松太郎（松陰の甥）は早馬で船木の代官所まで急を知らせに、そして、10 日予定の談判会議は晋作等が身を隠してボイコットとなったわけです。

晋作抜きで登人等が行ったのですが、事実上門前払い 14 日を約束されます。晋作が来なければ砲撃を継続します。となったわけです。

救ったのは、長州征伐も決まり、**八方ふさがりの状態で晋作探し**になったわけです。周布は、再度朝廷、幕府への上申案を持って岩国へ相談に行くことになった。

13 日 岩国にて、三条実朝の檄文を運ぶ途中の加藤有燐（藩校明倫館水戸学、教師；晋作が遊学時の知合い）から文をよんで激怒して檄文を止めている。⇒ このことにより 事件により今まで、育んだ、政之助の描いた筋書きとは違う事態にショックを受けて精神的に追い込まれて精気をなくしていく。

20 日 三条実朝等が下関談判会議にあきたらず、藩を出て東行するのを、奇兵隊が止める、その後、周布は、下関へ益次郎と談判会議の事後処理等を行っている。⇒以後、英国との 付き合いが始まる。

・9 月 5 日 自害しようとしているのを簡一は止めて、刃物を隠して、24 時間監視してい

る簡一氏は周布氏と行動をともししていた。そして、息子を小郡に連れて行き会議の様子を見学させて伝授させている。それでも、**殿の命令には、命がけで仕事をこなしている。**

・9月20日ころから死ぬつもりで断食をはじめ。

・遺書の内容は、墓は「最後に使っていた変名：麻田」でこの近く（矢原）に江戸に向けてたててくれ 幕府が攻めてくれば睨んで追い返してやる との意味らしい。孫七郎には「後を託す」内容。（写真はスロバキヤのマンホールから覗いている男：周布さんは、こんなイメージで幕府と戦っているのかも知れない）

## 2 井上馨の俗論派による襲撃事件

9月25日 倒幕か、幕府にお詫びかについて井上一人が頑張って「倒幕」に決定 ⇒ 昼 食抜きで午後8時ごろまで会議は続く（場所は茶屋の政事堂）。8時30分頃襲われる 襲ったのは、棕梨藤太が指示 藤太の次男 中井栄治郎、周布藤吾、児玉愛二郎 他、周布藤吾は、周布政之助の長男であり、第二次長州征伐の時に井上の配下で参戦し討ち死、児玉愛二郎は井上

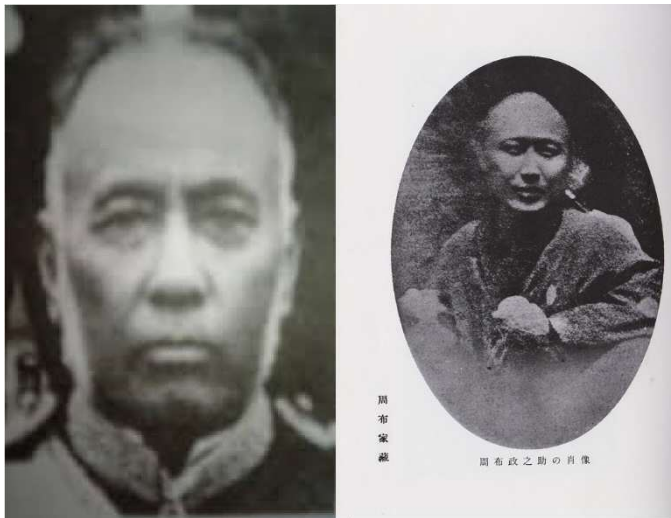


の従兄弟、新政府で井上の配下で出世した人物でした。 児玉は事件より20数年経って名乗りあげて真相を話し、お詫びに井上を襲撃した時に使った刀を 贈呈しています。 身内であるはずの藤吾と児玉が襲撃犯であったとは、井上はどのように思ったのであろうか。

- ①孫七郎からもらった刀が
- ②君尾 からもらった鏡が、心臓を守った
- ③母の手厚い看病
- ④所郁太郎（医者）がいたこと 焼酎 で消毒し、畳張り50針縫う大手術
- ⑤吉富簡一の手伝いにより助かる。（インターネットより）

## 3 長州ファイブの英国派遣について

県立図書館の資料によれば 周布政之助の画策となっている。英国側（マセソン商会）への交渉、出張費 5000 両の工面も益次郎に命じて行っている。杉孫次郎（周布の姉の息子）と周布政之助よく似ている。大内氷上の植木家出身⇒ 杉家に養子 下関への談判会議 副として出席（周布の代理かと推測）その時に井上に刀を贈っている、中西君尾（京の芸子；品川の彼女と言われている）から英国出発 前の選別に手鏡を贈っている。



4 杉 孫七郎 周布政之助が後を託した人物ですが、あまり知られていない。長州ファイブより先に幕府の遣欧使節である竹内保徳・松平康英らに従って欧米諸国を視察しています。当初、晋作と二人を行かせるように幕府と周旋していたが、一人になった。帰国後、周布の江戸の事務所で晋作、聞多等と酒を交わしています。報告を聞いた政之助は、翌年に、

5 人を英国密航留学させます。晋作を支持していますが保守派との軍事衝突には最後まで反対した。四境戦争では長州軍の参謀として活躍した。明治維新後には山口藩副大参事となる（現在の副知事に相当）。書がきれいで采香亭にあります。宮中関係の仕事を行っている。枢密院天皇の最高諮問機関と位置付けられていた。議長の宮中席次は第3位で大勲位・内閣総理大臣に次ぎ、国务大臣・元帥・朝鮮総督などよりも上であった。後に「重臣会議」が成立すると枢密院議長も重臣に加えられた。

以上